

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十三主日礼拝のしおり

2022年9月4日

前奏

招きのことば：詩編1編1-3節

いかに幸いなことか、

神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず

傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。

その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。

その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様を信じて歩もうとうすると、思いがけない苦勞やむずかしさが訪れることがあります。自分の未熟さによる苦しみもあり、人々の冷やかさによる生きにくさもあり、また神様が不思議なところへ私たちを導くこともあります。ですから私たちは覚悟して歩みます。どうぞ私たちに腰を据えてよく考える者とならせてください。主よ、私たちがあなたから罪の赦しをいただいて平安に歩みます。父なる神様、どうぞ導き支えてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：フィレモンへの手紙 1-21 節

キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者フィレモン、姉妹アフィア、わたしたちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。わたしは、祈りの度に、あなたのことを思い起こして、いつもわたしの神に感謝しています。というのは、主イエスに対するあなたの信仰と、聖なる者たち一同に対するあなたの愛とについて聞いているからです。わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています。兄弟よ、わたしはあなたの愛から大きな喜びと慰めを得ました。聖なる者たちの心があなたのお陰で元気づけられたからです。それで、わたしは、あなたのなすべきことを、キリストの名によって遠慮なく命じてもよいのですが、むしろ愛に訴えてお願いします。年老いて、今はまた、キリスト・イエスの囚人となっている、このパウロが。監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となっています。わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。本当は、わたしのもとに引き止めて、福音のゆえに監禁されている間、あなたの代わりに仕えてもらってもよいと思ったのですが、あなたの承諾なしには何もしたくありません。それは、あなたのせつかくの善い行いが、強いられたかたちでなく、自発的になされるようにと思うからです。恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置くためであったかもしれません。その場合、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する兄弟であるはず。だから、わたしを仲間と見なしてくれるのでしたら、オネシモをわたしと違って迎え入れ

てください。彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負ったりしていたら、それはわたしの借りにしておいてください。わたしパウロが自筆で書いています。わたしが自分で支払いましょう。あなたがあなた自身を、わたしに負っていることは、よいとしましょう。そうです。兄弟よ、主によって、あなたから喜ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの心を元気づけてください。あなたが聞き入れてくれると信じて、この手紙を書いています。わたしが言う以上のことさえもしてくれるでしょう。

福音書朗読：ルカによる福音書 14 章 25-33 節

大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけって、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかつた』と言うだろう。

また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めよう。だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのただれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

讃美歌 332 番

- 1 主はいのちを 与えませり、主は血しおを 流しませり
その死に よりてぞ 我は生きぬ、我 何をなして 主に報いし
- 2 主は 御父の もとを離れ、わびしき世に 住みたまえり
かくもわがために 栄えを捨て、我は主のために、何を捨てし
- 3 主は赦しと いつくしみと 救いをもて くだりませり
豊けき たまもの 身にぞ あまる、ただ身と たまとを 献げまつらん **アーメン**

説教：「腰を据えて考えて」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はイエス様の弟子になるなら、つまり、クリスチャンとして歩むなら、自分の家族や自分の命を憎み、自分の十字架を負って私についてきなさい、と言われていました。またそのあ

とで、イエス様についていくならそのために心に十分な備えがあるかを考えなさい、と言われて
います。塔を立てるならその前に十分なお金があるかしっかり予算を組みますし、戦いをす
るならその前に自分の軍の力が相手の軍に上回っているかどうかしっかり調べて勝算があるか
考えます。イエス様に従うことに伴う備えの自覚があるのかどうかを問うておられます。

それは大勢の群衆がイエス様についてきたときのお話になったことでした。イエス様は多くの
人々の病気を治し、悪霊を追い出し、そして特権階級の人々の目にも入らないような、苦しん
でいる人々のために、心を砕いてくださいました。それで、たくさんの群衆が、イエス様が歩
まれるところについていったのでした。

なぜイエス様はせっかく従ってきた群衆に対して振り向いて、心を砕くようなお話をなさった
のでしょうか。少し不思議に思いませんか。群衆がイエス様に期待をして、衝動的に、また少
し楽天的に従ってきていることに対して、イエス様はイエス様に従っていく現実の必要をお話
になっているのです。それはイエス様を信じて歩むすばらしい生涯には、いろいろな試練があ
ることがわかっていますから、前もって備えておくことができるようにお話になりました。イ
エス様は群衆に、わたしについてこないように、と言われていたのではありません。むしろ、
イエス様についてくる弟子としての生活の現実を先取りして、覚悟をもって従ってくるように、
と招いておられるのです。

イエス様を信じて歩む弟子としての人生は素晴らしい人生です。しかし、素晴らしいという意
味は、何もいやなことがない、苦しいことがない、つらい決断をしなくてよいということでは
ない、不安なことがないということではありません。むしろもしかすると自分中心な思いでこ
れまで逃げていたことに向き合うという意味では、心の負担の大きな生活なのかもしれません。
しかしそれでも素晴らしい人生です。私たちを大切にし、罪を赦し、いのちを与えてくださる
イエス様がその歩みを導いてくださるからです。

イエス様を信じていくすばらしさを、大切な私たちの父や母が、また兄弟姉妹が、配偶者や子
どもが理解してくれないことがあります。私たちはイエス様に知っていただいて、またイエス
様に憐れんでいただいて、慢性的な取り越し苦労や過ぎ越し苦労から解放されました。罪を赦
されて、自分を責め続けたり、また自分から逃げようとするところから解放されて、まっすぐに、
正しいことに取り組むことができるようになりました。新しいいのちが与えられて、神様の視
点で世界を大切にし、時間を大切にし、隣人を愛する新しい価値観をいただきました。そのよ
うなイエス様を信じる味わい深い幸せや私たちの無限の喜びや感謝は、まだ経験したことのない
かたにどう説明してもわかってもらうことは難しいものです。

肉親や身内の方々は私たちを愛して大切に思ってくださいています。このような親しい方々か
らは、もしかすると反対に心配してくださったりします。大丈夫なのか、と聞いてくれること
もあります。積極的に反対されることもあるかもしれません。

私たちは私たちの大切な方々の無理解があると、信頼関係が損なわれてしまうと恐れてしまったり押し流されてしまいがちです。しかしイエス様は、そのようなことは当然ありうることであると想定したうえで、それを上回るイエス様の愛をもって彼らを大切にしていけることができるように導いてくださいます。

イエス様はこのようなイエス様を信じて歩む者のこの世にあっての苦勞と喜びを、前もって覚悟するようにと教えておられます。

私たちは罪と死と悪魔の力にとらわれています。イエス様はそんな私たちと同じ人間となってきたり、私たちと同じように罪びとの間を歩まれ、十字架で私たちのために死んでくださり、最初から最後まで悪魔の誘惑に苦しめられました。私たちのために苦しんで勝利してくださいました。

イエス様は私たちのために苦しんでくださいました。イエス様は私たちのために勝利してくださいました。私たちはその十字架を自分のためだだと信じて歩みます。私も罪深い人々の間に生きており、私たち自身も自己中心な罪びとです。そして自分では自分の命を伸ばすことができずだれも教えてくれない死の苦しみに対して恐れます。死をできるだけ見ないようにしています。さらに私たちを神様から引き離し自分と同じ裁きに誘い込もうとする悪魔の執拗な誘惑の前には簡単に敗北します。その私のためにイエス様は罪のために十字架にかかってくださり罪の力を滅ぼしてくださいました。死に打ち勝ってよみがえってくださり私たちにとこしえの命を与えてくださいました。悪魔が救い主を全力で亡き者にしようとするすさまじい力をまともに受けつうして下さって頑強な悪魔の力を根こそぎにしてくださいました。

そのイエス様の十字架をわたしのためだだと信じて歩むのです。罪の力、死の力、悪魔の力に取り囲まれて、どうにもならない私たちです。自分の愛のなさ、無力、自己中心があらわにされて、何を信じて歩んだらいいのか、どこに力の源があるのか、とわからなくなりやすいのです。わかっていたつもりなのに、私たちの関心が変わり、状況が変わり、いろいろな難しいことがやってきたら忘れてしまいます。頼りにならない自分の力や持ち物や知り合いに信頼しても助けになりません。悔い改めて、すなわち、焦点を私のために十字架で死んで三日目によみがえってくださったイエス様に振り向けて、イエス様のみ言葉に信頼し、イエス様に信頼することが自分の十字架をおってイエス様についていくことです。

イエス様は、塔を建てる人の例を用いて、自分がしようとすることで必要な資源を自分がもっているのか前もって計算しない愚かさを戒めています。私たちは神様に遣わされている毎日の生活の現場で、さまざまな使命を帯びています。家庭の中で自分の立場ではどんなことを心がけて支えあっていけばよいのでしょうか。職場や近隣社会で友達の間で、人々に役立って人々の幸せを一緒に作り上げていくにはどうすればよいのでしょうか。教会で、赦された罪びとである私たちはお互いのために自分のたまものをどのように生かしていけばよいのでしょうか。

私たちはそのために与える愛が必要です。何が今必要なのかを見極める力も、将来を見通す力も必要です。誠実さや忍耐力も必要です。気力も安定感も必要です。赦す心も必要、高めあっていく心も必要です。そんな中で周りの人々が罪にまみれて見えたり、自分の自己中心な心を責め続けたりして罪の力が私たちに押し寄せてきても、死の力が押し流そうとしても、悪魔が巧みに不信仰に誘い出しても、私たち自身には力がないのでぶるぶる震えることがあっても、わたしが来たのは失われた者を探して救うためです、と言われるイエス様に私たちは前もってしっかり焦点をあわせて歩んでいきます。

イエス様は攻めてくる隣の国の王と自分の民を守るために戦わなければいけない王様のたとえを用いて外からの試練に対して前もって備えることを教えています。進軍してくる敵と自分の軍のバランスを前もって腰をすえて考えない愚かな王は、民もろとも滅ぼされてしまいます。自分に軍隊があると、もしかしたら劣勢でもがんばれば奇跡が起こって打ち勝つことができるのではないかと判断を誤ることもあります。根拠のない自信が妨げになって、そのとき民を守るためにほんとうに大切なことがわからなくなることがあるのです。私たちの毎日の歩みの中でも、外からやってくる様々な困難があります。一難去ってまた一難という状況が続くとも多いのです。イエス様は自分の持ち物を一切捨てなければ誰一人としてわたしの弟子ではありえない、と言われました。自分の持ち物や経験、自分の才能や能力や、自分の底力や強運が妨げになって、悔い改めてイエス様に焦点をあわせ、イエス様のみ言葉に生かされるという場面があります。イエス様は前もってこのような現実に備えるように教えておられます。

イエス様は私たちのような者を大切に思い、私たちのために十字架で死んでくださり、また三日目によみがえってくださって、私たちを罪と死と悪魔の力からときはなってくださいました。失われていた私たちを探し出して、そのみ救いをお与えくださいました。私たちは心高まって、感謝をもってイエス様に愛されていることを信じます。しかし、私たちは日々の暮らしのなかで、心がおびえ、心が暗黒になり、心がもやもやして、心が押しつぶされそうになるときがあります。ですからイエス様はそのようなことを予測して、また覚悟して、いつもイエス様の十字架がわたしのためであったことを信じてイエス様についていくように、前もって腰を据えて考えて、よく想定して、見失わないで、まどわされないで、イエス様のみ言葉に信頼し続けるようにと教えてくださいました。そこには当然信仰の戦いがあります。そこには信仰に期待しなくなる諦めがあります。現実の力に圧倒されて、信仰が小さく価値のないものに見えます。そのようなことがあることを想定しますが、恐れて腰がひけるということにならないで、むしろ今腰を据えて、この一週間もイエス様のみ言葉に信頼してまいりましょう。

自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。
ルカによる福音書 14 章 27 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讚美歌 354 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 牧主(かいぬし) わが主よ、迷う我らを 若草の野辺に 導きたまえ
我らを守りて 養いたまえ、我らは主のもの、主に贖わる
- 2 良き友となりて 常に導き、迷わば訪ねて 引き返りませ
我らの祈りを 受入れたまえ、我らは 主のもの、ただ主に 頼る
- 3 赦しの みちかい、救いの恵み、きよむる力は 皆 主にぞある
我らをあがない 生命をたまう 我らは主のもの、主に在りて生く
- 4 御慈愛(みいつくしみ)をば 我らに満たし、今よりみむねを なさしめたまえ
我らをあわれむ み恵み深し、我らは主のもの、主をのみ 愛す アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に、ときわに 絶えせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏